

中部(1)高陵小学校 適正化方策案の検証評価(事務局評価案)

方策案	中部 A (中宮北小と統合)		中部 B (殿山第一小と統合)	中部 C (明倫小と統合)	
	ア(統合校:中宮北小)	イ(統合校:高陵小)	ア(統合校:殿山第一小)	ア(統合校:明倫小)	イ(統合校:高陵小)
特に有効な点		<ul style="list-style-type: none"> 校区のほぼ中央に位置する。 保有教室に余裕があり増築の必要がない。 	<ul style="list-style-type: none"> 第一中が隣接していることから、小中一貫教育の対応が行いやすい。 		<ul style="list-style-type: none"> 保有教室に余裕があり増築の必要がない。
課題点など	<ul style="list-style-type: none"> 保有教室が19教室しかなく、増築等が必要。(5教室程度) 高陵小・明倫小から分離開校しており、歴史的な経緯から課題がある。 		<ul style="list-style-type: none"> 保有教室が25教室しかなく、増築等が必要。(3教室程度) 学校敷地が他の学校に比べて狭い。(約2/3程度) 最長通学距離が約2.0kmとなる地区がある。 多くの地区で他の小学校(中宮北小・明倫小)の方が近く、一部の地区で通学路が中宮北小校区を通過する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保有教室が13教室しかなく、増築等が必要。(9教室程度) 多くの地区で中宮北小の方が近く、通学路が中宮北小校区を通過する。 多くの児童が交通量の多い道路(杉田口禁野線)を横断して通学しなければならない。 一小一中にあたり、中学校通学区域の変更が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 最長通学距離が約2.0kmとなる地区がある。 多くの地区で他の小学校(中宮北小・中宮小)の方が近く、通学路が中宮北小校区を通過する。 多くの児童が交通量の多い道路(杉田口禁野線)を横断して通学しなければならない。 一小一中にあたり、中学校通学区域の変更が必要である。 高陵小は一部明倫小から分離開校しており、歴史的な経緯から課題がある。
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> 中部C案は、特に中学校区を越えた統合案であるため新たな一小一中の課題が生じることや、通学路が他の校区を通過すること、交通量の多い道路を渡る必要があることなど、多くの課題がある。 中部B案は、通学距離や他の小学校の方が近い地区が多いなどの課題がある。 中部A-イ案は、大きな課題がなく、学校の位置や保有教室数の点からも評価できることから、高陵小学校の統合方策は中部A-イ案が総合的に最善策であるとする。 				